

劇場・演劇を取り巻く社会からのニーズが具体化し始めているを感じています。社会包摂（ソーシャルインクルージョン）のための取り組みを、さらに増やして、演劇が、劇場が社会に不可欠な要素であると認識される

ためにも、私たちが取り組まなければならないことはまだまだ山のようにあるのです。それを一つ一つ、積み重ねて次の三〇周年という節目に向かって行かなければなりません。

Theater Go Round 札幌劇場祭 2017 報告

札幌劇場連絡会会長 藤村智子

TGR 札幌劇場祭2017は、十一月一日から十二月三日まで三三日間の会期で、三三団体が参加。そのうち大賞に二〇劇団、新人賞に五劇団、計二五劇団が賞にエントリーした。

後ホームページ上に掲載する、また各賞も俳優賞を新設するなどし、賞の内容は、大賞、優秀賞、特別賞、新人賞、審査員賞、オーディエンス賞、俳優賞とした。各賞の結果は次のとおり。

【大賞】

Yhs「白波っ!」。

TGRは二年目を迎えた今年、賞及び授賞式の内容の見直しをした。二〇〇六年のスタート時から五年目になる二〇一〇年に公開審査会・授賞式の形式となった。当初は画期的なこととして受け止められたが、回を重ね、公開審査会が常態化していく中で、徐々に審査会に対する見方も変化して、ここ一、二年は公開審査会不要論が多く聞かれるようになった。SNSなどを通じて容易に作品に対する反応が得られるようになったことなど、時代の変化も要因の一つかもしれない。

このようなことから、札幌劇場連絡会として内外の意見を伺いながら検討を重ね、作品の講評はTGR閉幕

【優秀賞】

〇トランク機械シアター「ねじまきロボットα」ともだちのこえ」。



大賞 yhs「白波っ!」



優秀賞 トランク機械シアター
「ねじまきロボットα〜ともだちのこえ〜」

過去に審査員賞は受賞しているが、大賞に次ぐ賞を人形劇作品が初受賞。毎年、社会的なテーマを盛り込みながら人として大切なことを優しく伝える作品を発表してきた。札幌に優れた人形劇文化があることを喜ぶたい。

○座・れら「アンネの日記」

理不尽で窮屈な隠れ家での生活の中にも思春期の少女らしい夢や恋がある。その結末を知るだけに、観客の胸には切ないものがよぎった。演出家の鈴木喜美夫はこの作品をライフワークとしてきた。俳優陣に適役を配し、丁寧に演出された秀作であった。

【特別賞】

○MAM「月ノツカイ」

一九八〇年代初頭に夕張で実際に起きた炭鉱事故を七〇年代に移して若い夫婦を軸に描いた。北海道を語る演劇作品の一つといえる。

○ニッポンの河川「大地をつかむ両足と物語」(東京)

頭に照明器具、腰にカセットレコーダー。役者が音響・照明を兼ねるとうたっていたがこういうことなのか!舞台表現の無限の多様性を観た。

○proto Paspoor「ある映画の話」

青年が語るある映画の主人公である「僕」の女友達との性的関係や暴力。生の実感が得られないまま暗闇に佇むような、不条理の世界を描いた。

【新人賞】

劇団 plus +「姉妹、一肌脱ぎますッ!」

ダメ両親を持った姉妹の奮闘ぶりをコメディータッチで描いた。新人劇団にありがちな仲間ウケするものではなく、ストーリー展開はオーソドックス。演出力をさらに高めて今後に期待したい。

【審査員賞】

NIN企画「『けんず』きみが傍にいた時代」より「靴」

短編三作によるオムニバス形式の中の一作。登場するのは靴とそれを操る役者のみ。セリフは無い。出会いから結婚、子供の誕生、出征、すべてを靴だけで表現。帰らない一足の靴から戦争の悲劇が静かに伝わる。

【オーディエンス賞】

○△首位打者▽札幌オーギリング 休止興行「ラストアンサー」

対戦形式のいわゆる大喜利。見事ファンの支持を得て、首位打者賞

○ハホームラン王V ELEVEN NINES ミヤゴロ

「やんなるぐらい自己嫌悪」

チラシに超真剣幻想的情熱群像劇!!とあるが正に。若手俳優陣が奮闘した。

【俳優賞】

○櫻井保一 yhs「白波っ!」の南郷力丸役。舞台狭しと疾走し、魅力的な南郷力丸を造型して終始舞台を牽引した。

○高橋海妃 MAM「父と暮らせば」の娘役。広島で被爆して生き残った負い目から結婚に踏み切れずにいる娘の思いを情感豊かに演じた。

以上、各賞を概観したが、TGR2017は例年に比較して収穫の多い年だったと思う。たとえば、受賞は逃したが、北海道演劇財団「ぐりぐりグリム第一章：おかしな森のヘンゼルとグレーテル」、劇団 words

札幌演劇シーズン二〇一七年の動向

札幌演劇シーズン実行委員会 事務局長 飯塚 優子

二〇一七年と二〇一七年度の演劇シーズン上演演目を以下に列挙します。(上演順)

二〇一七冬シーズン(二〇一七年一月二八日～二月二五日)

of hearts「アドルフの主治医」、MAM「父と暮らせば」(俳優賞に高橋海妃)、マイペース「ばかものすべて」等、いずれも記憶に残る作品であった。

二〇一七年、札幌劇場連絡会は韓国小劇場協会と交流協定を結び、日韓劇場祭交流事業をスタートさせた。その第一弾としてTGR期間中の一月二二日・二三日にソウルの劇団竹竹(チュクチュク)が「マクベス」をパトスで上演した。シンプルな舞台、優れた身体性、圧倒的な舞台だった。世界の水準は果てしなく高いのだと思わせるに十分だった。来年は札幌の劇団がソウルの大学路小劇場祝祭に参加する。

TGR 札幌劇場祭はまだまだ発展途上にある。試行錯誤と軌道修正を繰り返しつつ、あるべき姿を求め続けて行きたいと思う。

千年王国「狼王ロボ」 ※レパトリー作品

札幌座「北緯43°のワニヤ」

NEXSTAG「Laundry Room No.5」

風蝕異人街「邪宗門」